

臨調・行革粉碎！ 三里塚ジェット闘争勝利！ どんな攻撃にも ビクともしない 強力な分科会組織を

9%検査検修分科会が 回常任委員会席

九月十日動力車会館に於いて、第一回検査検修分科会常任委員会が開催され、検修下回り民託化を含めた合理化攻撃などを中心とした闘いの総括と、来る第八回定期大会に向けての意志一致を行いました。

職場の体制を強化し、
検修合理化をうちくたこう！
—— 斉藤分科会長あいさつ ——

座長に高田、分科副会長（勝浦・検査係）が選出され、冒頭あいさつに立った斉藤会長（幕張・検査係）は、「検修下回り対策委員会を軸にとりわけ、該当四支部が中心となり、独自要求など、現場交渉・団体交渉など設定し、闘ってきた。国鉄当局は、『職場規律の厳正』とからめて、合理化をさらにおし進めてきている。新採で補充することなしに、要員を削減してきている。最近の特徴は、要員不足は、各地方で合理化によって生みだされた要員で補充する、つまり、強制配転を狙っている。これは、合理化を強行することによって、ふきでた矛盾をさらに一層の合理化によって補うという、労働者を無視した許せない攻撃だ。これらの攻撃にうちかつ強固な意志一致と組織体制をつくっていかう」とあいさつしました。

続いて、来賓として出席した、本部関川委員長は、「厳しい情勢なればこそ、組織形成の各分科、とりわけ、検査検修分科会がその先頭にたち、職場での諸要求 闘う体制などを確立して、原則的に闘うことこそ、今かちとる課題である。第八回定期大会は、それらのことを含め、全員で成功させようではないか」とあいさつしました。その他、本部から吉岡組織部長、布施交渉部長が参加しました。

当局「本部」革マル一体となった
組織破壊攻撃をうちくたこう！
—— 林事務長が基調報告 ——

続いて、基調報告を林事務長（本部特執）が行いました。内容は、

- ① 反動中曽根内閣の軍事大國化―改憲攻撃は、日々激化している。
- ② 八月二日「国鉄再建監理委」による「緊急提言」は、「職場規律の確立」を第一とする「国鉄再建」に名をかりた労働組合破壊攻撃にほかならない。
- ③ 国鉄当局は、差別労務支配・専制的職場支配権の確立を強化し、さらに大合理化によって国鉄三十二万人から二十五万人体制を狙っている。

「赤字」の責任をすべて国鉄労働者に転嫁し
する全く許せない攻撃である。

④ 動労千葉破壊のために、国鉄当局は動労「本部」革マルと一体となつて、千葉局の要員不足を見こした、革マル分子の送り込みを画策している。具体的には、年内二〇名、八五年度までに二〇〇名。特に、先発組は、検修要員）これらの組織破壊の策動を、とりわけ分科会の組織力を一層強固にして粉碎して行こう。

今後のとりくみを決定

- ① 続いて、全常任委員が、討論に入り、今後の取り組みとして、
- ② 該当四支部が中心となり、職場で解決できる問題は、職場交渉を重ね、全体の問題としては本部交渉部と共に当局を追及していく。
- ③ 分科会の実体と諸要求を全体化していくために、第八回定期大会で提起する。
- ④ 本委員会終了後、提起された課題を職場にもちかえり、実践し、これらの経過を第二回定期委員会で発表する。なお、第二回定期委員会を、十一月中旬に開催する。

以上のことをすべて
の常任の満
場一致で確
認し、団結
ガンパロー
を三唱して
終了しまし
た。

